

令和3年2月19日

医療法人真正会 事務部 秘書 鈴木 裕子

時間をみつけて、齊藤正男会長の著書『人に尽くす』と、理事長の著書『医療・介護に携わる君たちへ』をまた少しずつ読み返しています。会長の本には、会長の生い立ちから真正会のはじまり、介護心得のこと、職員に期待する想いなどがとても詳しく書かれています。はじまりを知ると今がまた新鮮に映って、好きで何度も読んでいる理事長の本にも「これと繋がってたんだ」とか、新しい発見があります。

## 28. 初心に帰り、常に新鮮な感激を持ちましょう

介護業務に携わって、長期にわたるうちに、いつの間にかマンネリズムが心の隅に忍び寄ってくるものです。マンネリズムは、新鮮な感激を彼方に追いやってしまいます。これを職業病と言う人もいます。常に新しい感動、喜び、発見を得る心豊かな品性を持つことは大切なことです。そのためには、はじめて職場に立ったときのあの緊張感を今一度呼び戻してください。そのときにマンネリズムは消え、これこそ、常に新鮮な感激を持つことができる秘訣なのです。

真正会の採用面接の時、医療・福祉の分野が初めてで堅いイメージを持っていた私は、病院の秘書だから守秘義務とか正確さをまず求められるんだろうなと思っていました。すると「うちは事務職も含めて目の前の患者さんのためにみんなで汗をかく病院です。事務仕事だけやっていればいいわけではありませんが大丈夫ですか？秘書の仕事もあなたのやり方でいいので一緒にやってみましょう」と言っていたら、何か他と違う魅力を感じて迷いなく「よろしくお願いします」とお答えしました。それから16年が経ちます。マンネリズムに陥って失敗して反省することもあります。その都度「初心に帰ろう。大事なことを思い出そう」と思います。幸運なことに、年に二度新人研修で理事長がずっと変わらず大事なことを伝え続けている姿を近くで見ることができます。その時の自分なりになぞるように再確認し原点に立ち戻る大事な機会になっています。

これはおまけですが、自己嫌悪から立ち直れないときは人に泣きついて助けをもらったり、対人関係で悩んだときは苦手な人の好きなところを数えたり、究極は母の教える思い出したりして、ニュートラルな自分に戻すこともわたしの大事な時間です。

次の No. 29 は、霞ヶ関南病院病院長の海津啓之先生にバトンをお渡しします。先生、よろしくお願いします。